

全学共通教育による 千葉大学の 地域再生・地方創生 人材づくり



自己紹介

建築都市コンサルティング会社(1991~2001)

コンサル

千葉大学

キャンパス整備企画室(2001~)

コミュニティ・イノベーションオフィス(2013~)

地域イノベーション部門長 COC+推進コーディネーター

国際教養学部国際教養学科(2016~)

大学ガバナンス
学部・教員

横芝光町シティマネージャー(2015~)

内閣府からの派遣、首長の補佐役

自治体力学
国制度

NPO法人ちば地域再生リサーチ(2003~)

年4,000万 事業規模の地域づくり会社の事務局長

地域の
動かし方

高校生や**大学生**などこれからの
地域の担い手となる若
者を**地域の課題解決**
の取組に巻き込むための方策

高校生や大学生など**これから**
の地域の担い手と
なる若者を地域の課題解決の取
組に巻き込むための方策



千葉大学 COCCOC+

COC

地(知)の拠点整備事業

地域再生・活性化の核となる大学の形成

クリエイティブ・コミュニティ
創成拠点・千葉大学

東京ベッドタウンの郊外コミュニティ

地域課題を解決する人材育成

地域に密着する貢献型研究

郊外住宅地での地域拠点形成

7,461人の
若年層流入超過

平成25年度～



平成27年度～



COC+

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業

若年層人口の東京一極集中の解消

都市と世界をつなぐ
千葉地方圏の“しごと”づくり
人材育成事業

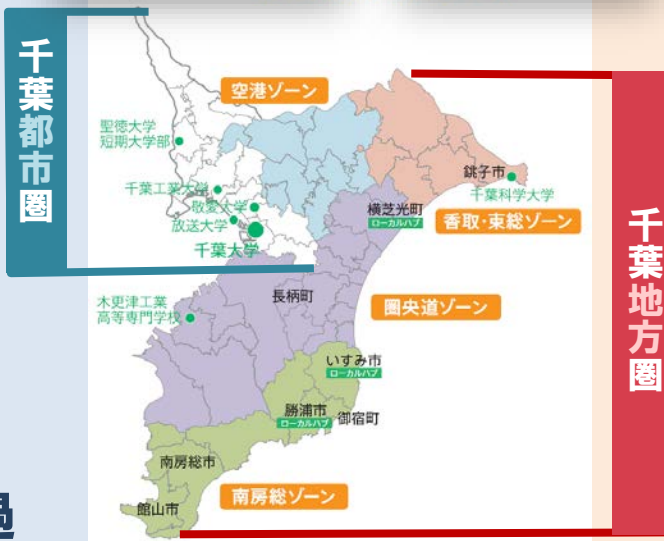
若者流出が激しいローカル

地域産業を振興する人材育成

地域産業のイノベーション推進

新卒者の地方における就職・起業

3,231人の
若年層流出超過



COCとCOC+で千葉県全域で地域づくり、産業づくりの人材育成を展開

全学共通教育による千葉大学の地域再生・地方創生人材づくり

人材像 1

地域に関わり貢献できる人材(すべての学生)

社会の一員として、地域と関わりながら、課題を主体的に設定し、解決する能力をもった人材

人材像 2

地域課題を解決する人材

地域の再生を社会の重要課題として意識し
地域サービスに関わる多種多様な専門能力を有する人材

- 自治体職員、医療・福祉団体職員、企業のCSR担当者
- 教員、研究者、シンクタンク、コンサルティング会社
- まちづくりNPO、まちづくり会社、起業家
- メンタルケア・セラピスト、コミュニティ・オーガナイザー
- コミュニティ・ビジネス・ソーシャルビジネス起業家 etc.

人材像 3

地域産業をイノベーションする人材

専門分野の知識や技術を持ちつつ、グローバルな視点で
地域産業をイノベーションする専門能力を有する人材

まずはじめに 地域志向の 入口に寄せる

入口の造成



平成27年度

地域志向科目(1単位)の必修化

新入生

約**2400**人

が、「**地域と暮らし(地域コア科目群)**」を受講

- ・多様な専門学部の教員による20科目
- ・学生は5グループに分けられ、各4科目から選択

団地再生まちづくり／市民参加・協働のまちづくり／超高齢社会論
地域の地学的背景を知る／健康都市・空間デザイン論／地域に住まう
地域づくりと地方の再生／地域創生としごとづくり／まち・ひと・しごと創生
地域振興とデザイン／学校・大学と地域社会／都市環境の生態系デザイン
地域課題対応ワークショップ／環境共生まちづくり／地域づくりとアートマインド
地域とNPOの社会学／地方の地域づくり／3共時代の地域と住まいづくり
大学と地域の共創まちづくり／チームで取組む地域活動入門

平成31年度

必修科目(1単位)の増設 計2単位に

新入生

約**2400**人

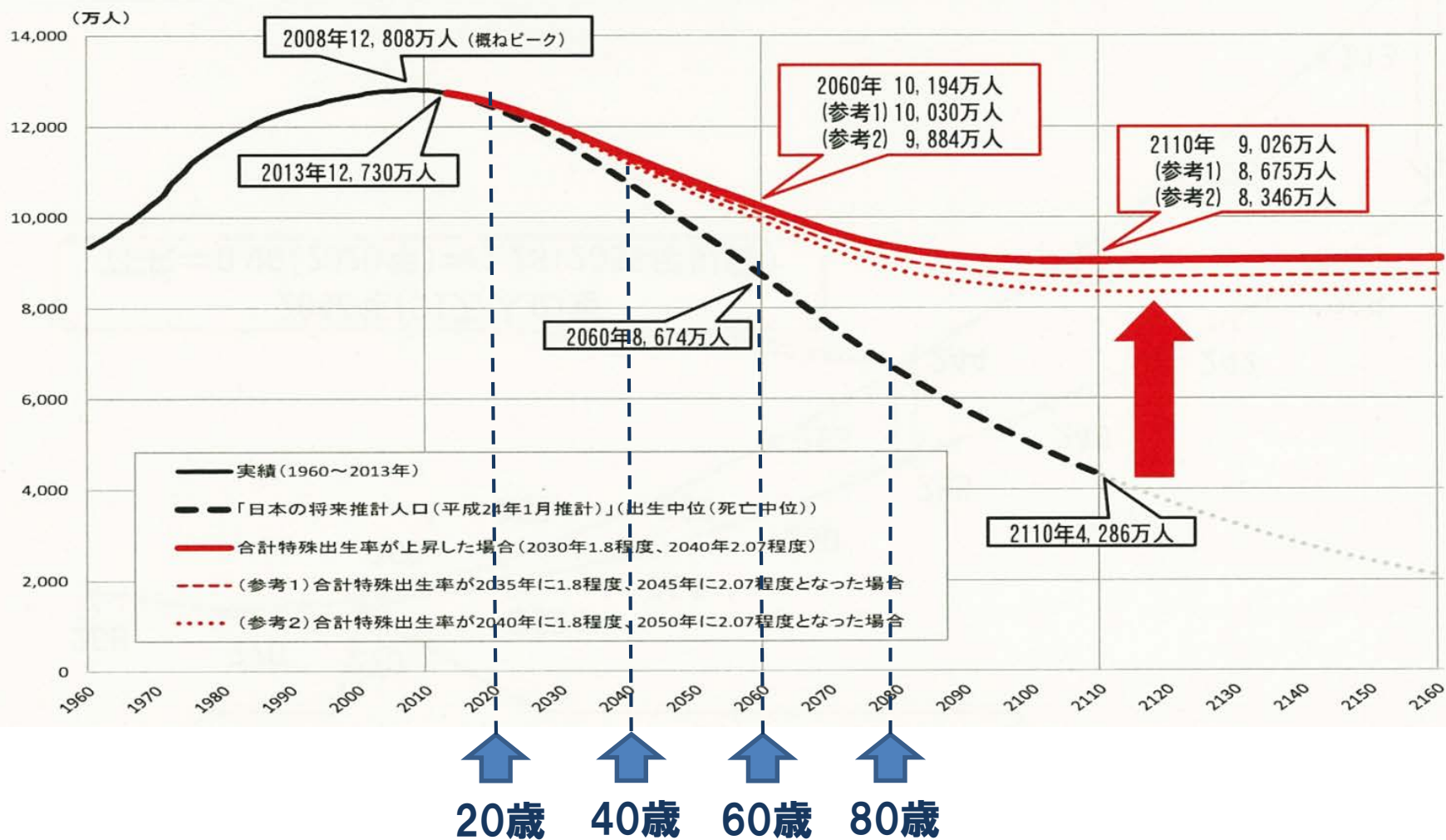
が、さらに必修科目を受講

- ・スマートラーニング、eラーニングによる統一科目
- ・地域の実態、課題、目指すべき方向性を共通理解

(仮)ローカル・ソーシャルに生きる・働く



日本の人口の推移と長期的な見通し



次に 地域志向の マインドセット

グラデーション定着

人材育成のためのグラデーション定着学修

非地域志向学生

地域志向
必修科目
の受講

多数・多様な
地域志向科目
の受講

1年目

2年目

3年目

4年目

地域でのワークショップ(2日)

地域でのPBL(50時間)

地域のNPO・企業活動体験(50時間)

地域活動のチャレンジワーク(1ヶ月)

地域志向学生

多数・多様な
地域志向科目
の受講

地域志向科目の増設(必修除く)

地域志向科目の増設(必修除く)

平成27年度

47科目



平成28年度

55科目



平成29年度

63科目

地域の再生／超高齢社会の地域づくり／共生環境のまちづくり／地域における起業を語る
地域を共につくる／地域の中のキャンパスづくり／人口減少時代と地域／千葉県の産業
観光を考える／千葉の地域を知る／サテキャンで地域とつながる／地域ベンチャー起業論
地方創生を語る／環境をデザインする／地域を知り、地域で企画する／地域づくりの道具
非営利市民事業と協同組合／地方創生の実務現場／スポーツによるコミュニティづくり
地域クリエイティブ演習／カフェをつくる／地域課題を解決する農業イノベーション

1科目以上地域志向科目を受講した学部生割合

平成27年度

27.2%



平成28年度

50.1%



平成29年度

72.3%

(10,700人に対して)



全学共通教育プログラムによる展開1

全学共通教育プログラム 23単位

サティフィケート 地域課題解決人材育成教育プログラム

千葉大学・敬愛大学・放送大学の関連科目の単位互換／読み替え

コミュニティ再生ケア学

人材像 地域課題を解決する人材

・多様な学部・学年の学生が履修中 **139名**

【学部】

法政経学:35名、教育学:33名、工学:26名、園芸学:12名
国際教養学:12名、文学:11名、看護学:7名、理学:3名、

普遍教育(89科目)・専門教育(121科目)の
横断プログラム

全学部の専門科目を単位認定科目として指定

23単位を取得した場合に
千葉大学の履修証明



29年度
履修終了者
8名

コミュニティ再生ケア学 23単位

普遍教育科目

地域と暮らし
(地域コア)
教養コア科目 (必修)

講義・
体験型科目
地域コア関連

PBL・
実習型科目
地域コア関連

地域と地域再生の基礎・理論、スキル、体験を学ぶ



専門教育科目

所属学部・他学部の地域に関する専門教育科目
学部にすべての学生が履修できる全学共通科目があります。

文学

教育学

法政経学

理学

工学

医学

薬学

看護学

園芸学

地域に生かされる知識・スキルを専門的に学ぶ

地域づくりに必要な能力

人間的・社会的な能力

結果をすぐ求めず、粘り強く付き合える能力
誰とでも打ち解けるコミュニケーション能力
声かけの能力
誠実さ
人の話に耳を傾ける能力
自己向上心
自己のマネジメント能力
市民に慕われ、また関係団体等

コミュニケーション能力

人の話に耳を傾ける能力
多様な背景をもつ相手とコミュニケーションをうまく図ることができる能力
同年代と円滑に話せるだけでなく、年代の離れた相手とでも会話が弾む能力
立場の違う人の意見を聞き、なぜその人がそう考えるのかを分析する能力
トラブルを起こすような事態を未然に防ぎ、解決方法をしない

調整力

多様な住民・組織等との交渉や調停・調整能力と行動力
諸団体相互や、基礎自治体や関連団体、企業等との調整とパイプ役
住民グループ毎の活動相互や相反する利害の調整
合意(コンセンサス)形成する能力

ファシリテート力

意味ある場をつくる能力
ミーティング等の場で、発言や参加を促し、話の流れの整理する力
理解の一致、相互理解をサポートすることにより、組織や参加者の活性化、協働を促進
市民・地域組織への動機付け
マクロ・ミクロになぜ?と自問すること
中立であること
参加者の相互作用を信じること

プランニング力

計画の立案・計画・プランニング能力
コミュニティを高める能力
多様な視点から考え提案する力
プロジェクトの評価能力
多分野・多機関・多主体の計画・実行のアドバイ

情報収集

地域の課題を分析し課題・ポテンシャルを診断する力
当該地域を熟知し地域風土・文化を理解
地域内の状況をつぶさに観察する能力
周囲の地域づくりやソーシャルキャピタルに関する把握
時代の方向性を見極める能力
問題の本質を知る力
地域の潜在的な魅力に気づく能力

プレゼンテーション力

アピール能力
自分が考えているアイデアを構造化して伝える力
自分が問題だと思ったことを誰に伝えていけば分かる力
デザイン力

組織・経営力

必要な資金を探し活用できる資金調達能力
財政や人事の運用と管理能力等の実務能力
経済活動の理解
地域全体の活動に対して予算を配分する能力
行政の業務・手続きへの理解

その他

時間や労力の中で、協働で解決する気持ち・意思
各種業務をこなすのにふさわしい人材を探し、その人に業務を依頼する力
将来を洞察し、必要な方向性を見通すことが出来る広範な知識や哲学の保有
目的を達成するために既存制度に風穴を開ける努力と情熱
地域の管理や住民活動に関する制度的な事項の知識
建築、都市計画、教育、福祉などの専門性
自らの専門以外も広く理解する力

全学共通教育プログラムの必要単位

科目種別			必要 単位数	開講されている 科目数	
普遍教育科目	必修	講義型	地域に関する必修科目(新入生全員)	1	20科目
		講義・ 体験型	地方創生に関する基礎的な科目群	4~10	9科目
	地方創生に関する多様な分野・テーマの科目群		2~4	19科目	
	地方創生に関わるためのスキル取得科目群		2~4	14科目	
	PBL・ 実習型		PBL(プロジェクト・ベースト・ラーニング)	2~6	5科目
		カレッジリンク・プログラム			
		地域活動体験			
		インターンシップ			
専門教育科目		地方創生に関する各学部の専門科目群	6	48科目(全学共通) 73科目(所属学部限定)	
取得要件			計23		

全学共通教育プログラムによる展開1

全学共通教育プログラム 30単位

副専攻 地方創生推進人材育成教育プログラム

千葉大学・敬愛大学・放送大学の関連科目の単位互換／読み替え

地域産業イノベーション学

人材像

地域産業をイノベーション
するグローバル人材

・多様な学部・学年の学生が履修中 **42名**

【学部】

国際教養学:10名、法政経学:10名、園芸学:7名、文学:6名
工学:4名、教育学:3名、理学:1名、看護学:1名

普遍教育(102科目)・専門教育(79科目)の
横断プログラム

全学部の専門科目を単位認定科目として指定

30単位を取得した場合に千葉大学の修了証明

地域産業イノベーション学 30単位

普遍教育科目

地域と暮らし(地域コア)
(必修)

講義・体験型科目
教養展開

PBL・実習型科目
教養展開(地域コア関連)

地域づくり、地域産業、イノベーションの基礎・理論、スキル、体験を学ぶ



専門教育科目

所属学部・他学部の地域産業イノベーションに関する専門教育科目
すべての学生が履修できる全学共通科目があります

全学共通教育プログラム履修者増加のための取り組み

多面的な取り組みにより履修者増加

全学部生に対する周知・サポート

●履修手引きの配布

履修の手引き冊子を全学部生に配布



●ガイダンス・相談会の開催

4月、10月の第1週目に実施



●サポート体制(履修登録制)

履修登録制とし、登録した学生に対して、取得中証明書の発行、履修・進路などの情報発信、学生同士の交流会開催等をサポート

千葉大学広報誌「ちばだいプレス」による周知

平成28年度に2回発行(8,000部発行+HP)



特集: 千葉大学の地域での取り組み (平成29年1月号)



特集: 全学共通教育プログラムって何だろう? (平成29年3月号)

高校生の地域系を学ぶ進路対象として評価

ベネッセおよび河合塾が発行する高校教諭向け雑誌(各3万部、5万部)の編集部にも評価され、平成28年度夏に発行

ベネッセ
VIEW21



河合塾
Guideline



そして 地域に出る

関わりしるの造成



地域(NPO)活動体験学習

地域再生に取り組むNPO等の活動(50時間)に参加し、体験を通じて地域課題や地域活動、市民団体の役割とその実践について学ぶ。

学生受入団体 千葉市、松戸市、柏市の28団体
横芝光町、木更津市、いすみ市、東金市の4団体

履修学生

26年度: 12名

27年度: 15名

28年度: 12名

29年度: 9名

30年度: 13名

NPOこんぶくろ池自然の森
千葉市民活動支援センター
西千葉工作室
Hello Garden
NPOバランス21
NPO土気NGO etc.



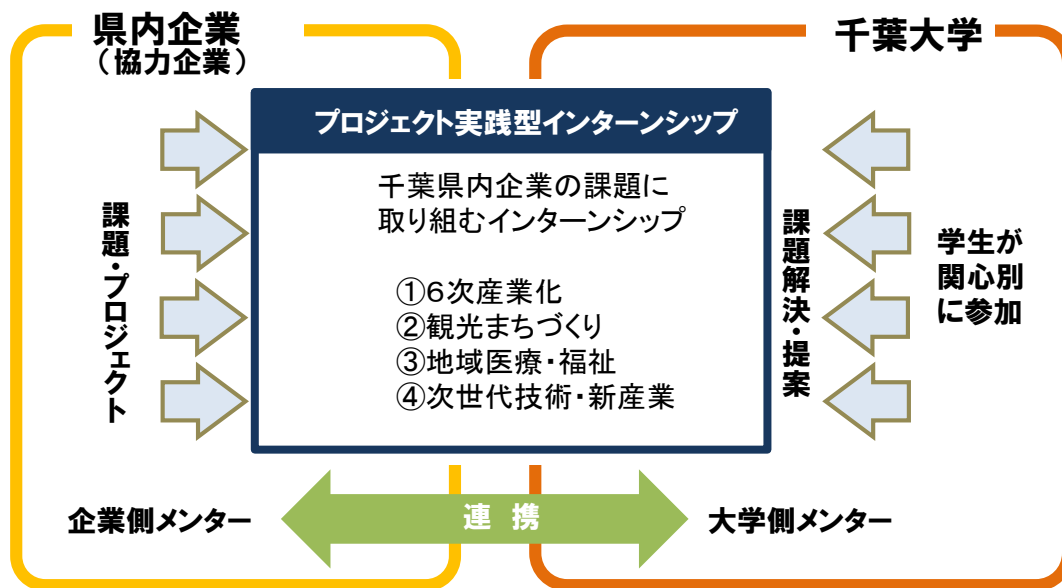
地域指向型インターンシップ

地域活動を行っている自治体・企業・団体等においてインターンシップ研修(40時間)に参加する体験型授業。自治体・企業・団体等の一員として地域に関わりながら、課題解決に取り組める能力を取得する



プロジェクト実践型インターンシップ 30年度実施

県内企業からの課題・プロジェクトに取り組むインターンシップ。30年度は5企業。



学生(2単位)と市民(修了証書)がともにWS形式で学ぶ授業

各回学生15名、市民15名を募集

- 学生:市民のもつ具体的な地域ニーズや社会経験から主体的な解決方法を学ぶ。
- 市民:若い感性や発想から学ぶとともに、地域で活動するための方法を学ぶ。受講料1万円。



カレッジリンク・プログラム@千葉 @松戸 @柏 @ローカル

生活の質の充実 新たな学問領域の構築 地域環境づくり

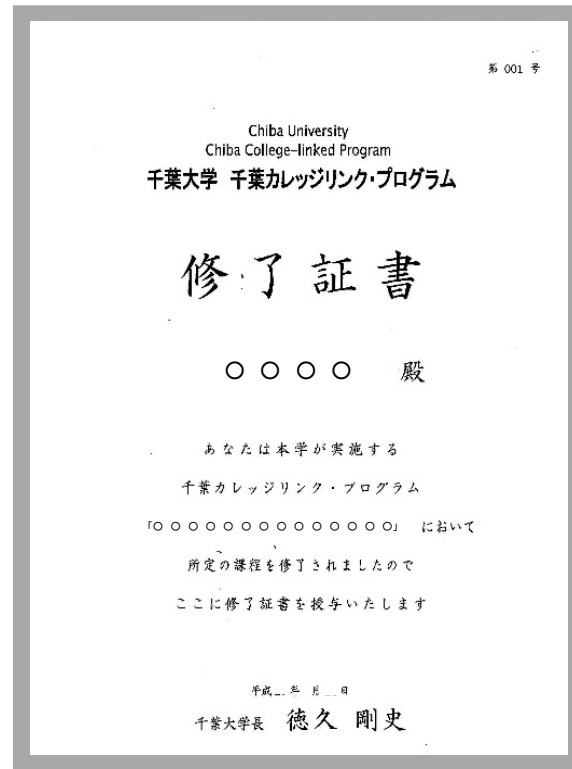
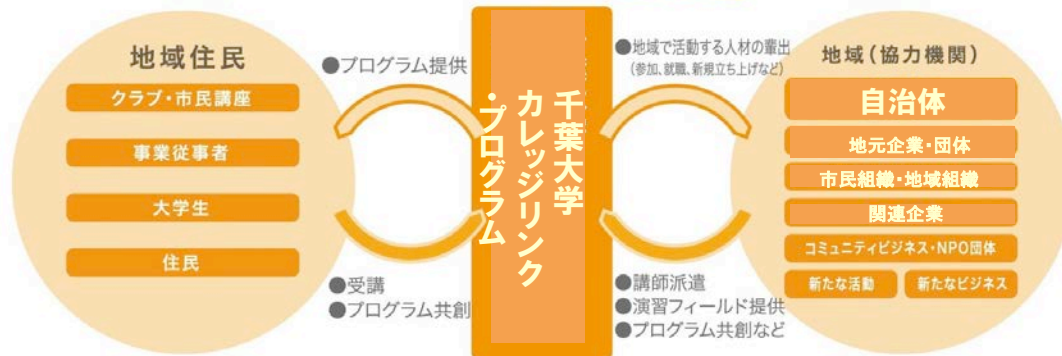
公民学連携による新たな学習プログラム

互教互学のスパイラルアップ

民

学

公



カレッジリンク・プログラム@千葉 @松戸 @柏

@千葉A 26年度～

- ・減災まちづくり入門「安全・安心な地域づくりの担い手養成講座」(26年度)
- ・創造性をみがいて日常を豊かに(27年度)
- ・地域を元気にするアプリをつくる(27.28年度)
- ・「稲毛」におけるクリエイティブな場づくり(28年度)
- ・映画と即興演劇(インプロ)から学ぶ『日常における触発と表現』(29年度)

@松戸 29年度～

- ・『食と緑』のパートナー養成(29年度)

@柏

- ・味噌について学ぶ
- ・セグウェイによる街づくり
- ・街で植物を上手に育てるための基礎講座
- ・柏の葉公園 樹木守になろう



カレッジリンク@千葉2016 コース2 「地域を元気にするアプリをつくる」 withサイボウズ

サイボウズ社のクラウド型アプリ制作サイトを活用し

地域のNPOの課題に応える

■吉川亮(子ども劇場千葉県センター)

街をまるごと大学キャンパスにする

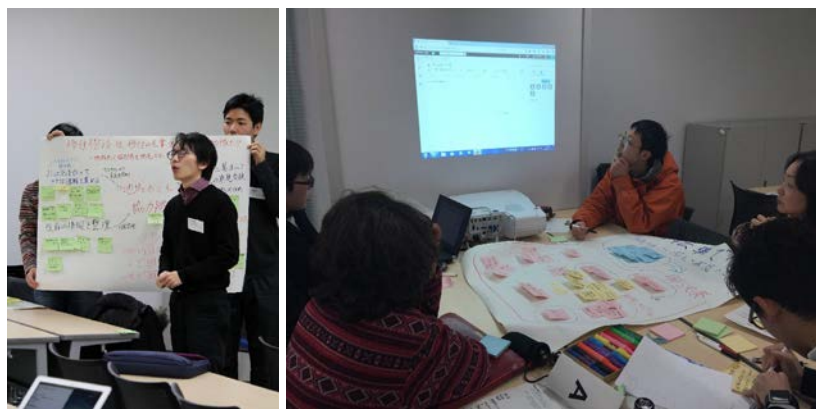
■鈴木雅之(千葉大学)

新しい観光ビジネスをつくる

■高浜大介(地球のしごと大學)

地方への移住を事業化

■高原和江(いすみライフスタイル研究所)



カレッジリンク@千葉2018 シェアでまちをつくる 郊外ニュータウンでシェアビジネスをつくる

シェアリングタウンとは

■積田有平(株式会社スペースマーケット)

コワーキングで地域とつながる

■坂本純子(パクチー代表、SHI TSU RAI)

シェアハウス

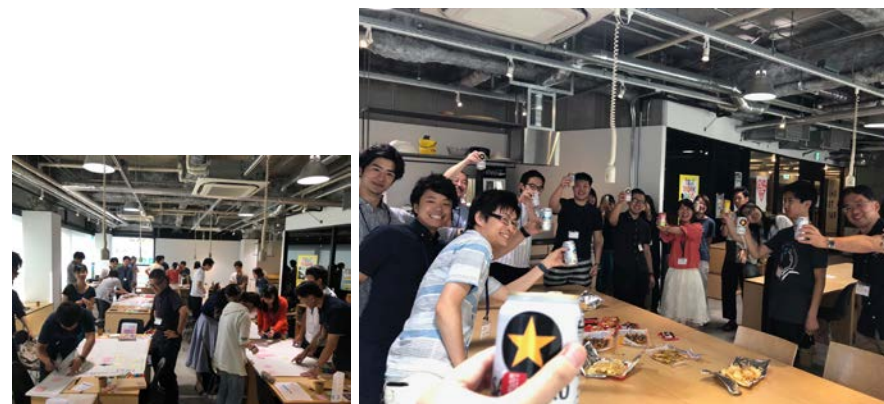
■丁志映(千葉大学)

まちのシェア

■西山芽衣(マイキー、西千葉工作室)

都市と地方のシェア

■千葉市政策企画課



カレッジリンク@千葉B 2016

「生涯学習のまちづくり」

@長柄町

生涯活躍のまち(日本版CCRC)を進める長柄町において、シニアを呼び込む生涯学習まちづくりについて企画。

1泊2日合宿型

学生20名、町民8名



カレッジリンク@千葉B 2017

「まちづくり学入門 活力ある“まちづくり”の基礎」

@横芝光町

横芝光町の有休土地を活用し、まちなか、まちと都市、の交流が進むまちづくりをについて企画。

1泊2日合宿型

学生15名、町民10名



カレッジリンク・プログラムから生まれた活動



かし＊はなプロジェクト



農ある生活の実践：柏たなか農場

修了生が制作した「いろはかるた養生訓」

「サテキャンで地域とつながる」(2単位)

そのサテキャンを活用して、大学と地域コミュニティつながるプロジェクトについて、講義と演習(ワークショップ・現場体験)を通じて学ぶ授業。

地域の中心としてのキャンパスとして、大学、住民、関係する団体にとって望まれるプロジェクトの内容をワークショップ形式で具体的に掘り下げ、具体のプロジェクトをつくりあげる。

2017年度 #苔キャンでつながる

サテキャンにて2月に開催された千葉市療育センターなどとの共同イベント、「ふれあいフェスティバル」の中で、「苔玉作り体験&ハーブティーカフェ」という企画を学生たちが実施した。63名の市民が参加し、オフライン、並びにSNS上「#苔キャン」で、人々の間に「つながり」を作る試みを行った。

こけだまづく たいけん
苔玉作り体験
&ハーブティーカフェ

2月18日(日)
(はまのわ「ふれあいフェスティバル」内で開催)

午前の部
10:00-12:00
午後の部
13:00-15:00

作ったコケ玉はSNSにアップしてみよう！#苔キャン

午前/午後 各先着30名限定

部屋に緑を添えませんか？インテリアとしてもお洒落な苔玉を自分で作れます。持ち物不要、大人から子供まで気軽にご参加いただけます！一緒に暖かいハーブティーも用意しております。ぜひお越しください！

場所：千葉大学サテライトキャンパス美浜はまのわ(旧高浜第二小学校 3F)

サテキャン CHIBA UNIVERSITY
地(知)の拠点



ローカル・プロジェクト実習 2017

地域域経済を活性化するための空き公共施設活用方策提案

銚子市、勝浦市、南房総市

学生
18名

地域経済を活性化するための空き公共施設活用方策を考えるPBL型授業
銚子市、勝浦市、南房総市の空き公共施設を対象



いすみかくプロジェクト(空き店舗、地域人財掘り起こし、デザイン導入)

いすみ市

学生
11名

いすみ市の空き店舗を活用したビジネス創出のプロジェクトを企画・実践するPBL型授業
空き店舗改修、地域の人財・資源の掘り起こしと活用、学生のスキルを活かしたデザインプロジェクト



ローカル・プロジェクト実習A・B 2018

コース	PBLタイトル	担当教員	主な開講場所
A1	サテキャンに「もの・ひと・こと」アーカイブ拠点を つくる	鈴木雅之 国際教養学部	千葉市 サテキャン
A2	ちば共創都市圏プロジェクトをつくる	阿部厚司 地域コーディネーター	千葉市 サテキャン
A3	地域と地元企業の連携を考える～山武杉プロジェクト～	田島翔太 工学研究院	千葉市 東松戸駅周辺
A4	若手農家のお米新商品開発インターン	加藤美栄 地域コーディネーター	いすみ市
B1	新観光商品造成を学ぶ	加藤美栄 地域コーディネーター	いすみ市
B2	ローカルキーパーソンを取材し、雑誌をつくる	鈴木雅之 国際教養学部	横芝光町
B3	世界遺産のまちから学ぶ～佐原の大祭と観光のまちづくり～	関谷昇 社会科学研究院	香取市佐原
B4	地方のサービス産業の課題を知り、解決策を提案する	田島翔太 工学研究院	長柄町 リソル生命の森

各コースの受講者間の交流を進め、地域課題解決を共有するための交流会を開催予定
千葉大学の他のPBL型科目の受講者を含め(100名程度)

正課外 千葉テレビとのタイアップ企画

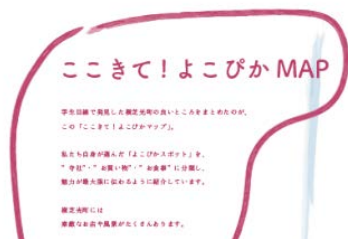
2017 町の魅力発信

千葉テレビと連携し「学生がローカルを感じ、メディア業界を体験しながら、地域の魅力を発信するしごとを考える」ことを目標にした人材育成プロジェクト

横芝光町で番組作成



BOSO熱血TVに出演



学生には報酬

2018 オリジナルアイス開発

横芝光町のアイス工房の協力で、県内の5つの特産品の味を掛け合わせたオリジナルアイスを開発し、販売



農家等との交渉



道の駅、生協等で販売



BOSO熱血TVに出演

正課外 東京駅前KITTE において PR・テスト販売

東京丸の内にある千葉県の魅力満載のアンテナショップ「ちば 1・CHI・BA(いちば)」
においてCOC+事業による成果品をPR販売(テスト販売)2017 12/12~14



マネジメント① 大学、自治体、企業等との連携強化



千葉大学

CHIBA
UNIVERSITY

参加校



敬愛大学



木更津工専



千葉工業大学



聖徳大学短期大学部



千葉科学大学

協力校



放送大学



城西国際大学



日本大学生産工学部



千葉県



横芝光町



いすみ市



勝浦市



芝山町



銚子市



東金市



山武市



御宿町



鴨川市



南房総市



館山市



木更津市



君津市



長柄町

金労言

日本政策金融公庫 千葉銀行 京葉銀行 千葉興業銀行 銚子信用金庫 横芝光町商工会 いすみ市商工会 勝浦市商工会 ONE勝浦企業組合 千葉日報社 千葉テレビ放送

地元企業等

成田空港活用協議会 NPO法人TINA 合同会社SOZO 自然と共生する里づくり連絡協議会 NPO法人いすみライフスタイル研究所 港の朝市運営委員会 夷隅東部漁業協同組合 いすみ市耕作放棄地対策協議会 千葉県タクシー協会外房支部 いすみ市観光協会 いすみ鉄道 横芝敬愛高等学校 向後米穀 理想郷 アクセルコミュニケーション リソルホールディングス Rプロジェクト リソル生命の森 合同会社ウッド 千葉県立安房高等学校

首都圏企業等

サイボウズ JETRO千葉 マイファーム ベネッセi-キャリア エムズ マザアス パクチャー



CHIBA
UNIVERSITY

全学共通教育による千葉大学の地域再生・地方創生人材づくり

千葉大学サテライトキャンパス美浜

千葉市の廃校小学校の一部を
賃借・活用した地(知)の拠点

定期的、不定期に活動する研究事業とアクティブラーニング型・PBL型の学修の場として取り組み

- カレッジリンク・プログラム
- サテキャンで地域とつながる

26年度:延906名 28年度:延1095名
29年度:延1900名 の来校者



シンポジウム



工房でのWS



公開講座



周辺住民の生涯学習の場として定着
住民を対象とした現地介入研究が誕生



マネジメント③ 地方の受け皿 コーディネーター&ローカルハブ

コーディネーター

□推進コーディネーター

鈴木雅之

□地域コーディネーター

田島翔太 (工学研究院)
阿部厚司 (←JETRO千葉)
加藤美栄 (←マイファーム)
大蔵純也 (←ランドブレイン)

担当業務

COC+推進マネジメント
参加大学との連携
地域連携のコーディネート
地域の産業イノベーション
千葉大学の授業担当

ローカルハブ 建物の無償貸与

長柄町ローカルハブ



長柄町町内空き家に設置

勝浦市ローカルハブ



市役所内に設置

横芝光町ローカルハブ



町役場敷地内に設置

いすみ市ローカルハブ



空き店舗に設置



PUSH × PULL

PUSH

大学生

PULL

ローカル志向

ローカルキーパーソン
元気な企業・人・NPO等

大学

- グラデーション定着
- ・ 副専攻
- ・ PBL、インターン
- ・ 就職支援

ローカル

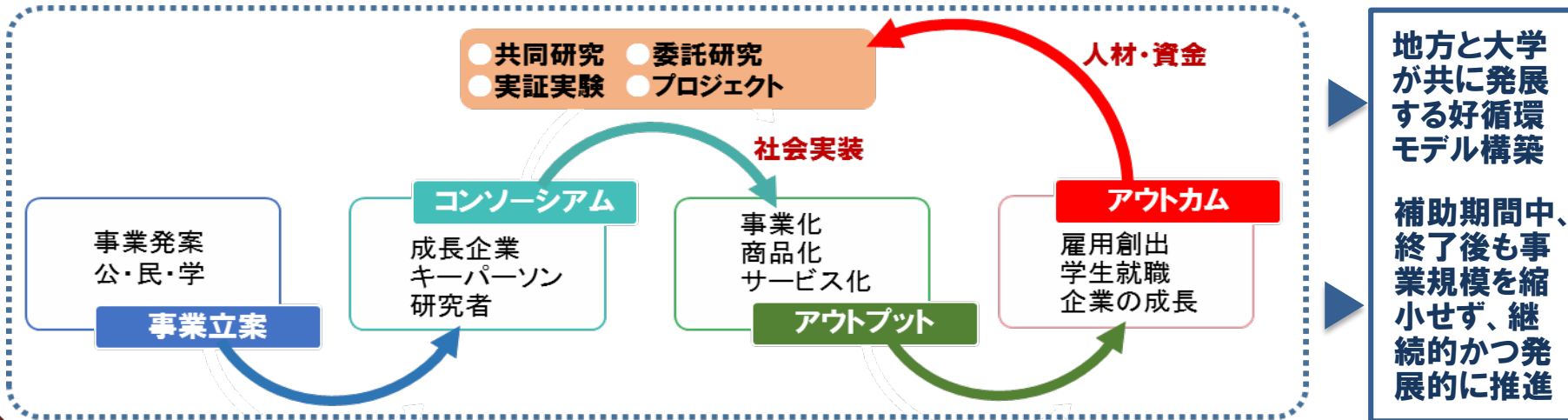
- 学生ウェルカムサポート
- ・ ローカル活動体験
- ・ 成功モデル
- ・ メンターサポート

マネジメント⑤ 地方での学修(コスト)支援獲得

コストシェア

自治体が獲得した地方創生推進交付金、特別交付税交付金を活用して研究受託
コミュニティ・イノベーションオフィスが受託→PBL型科目開講・学内研究室のマッチング

委託元	事業内容	28年度	29年度	30年度	成果
補助金 受託研究	移住・創業支援事業	3,500,000	6,000,000	5,000,000	PBL開講、一部事業化
	空き公共施設活用	-	1,994,000	-	PBL開講
	大学連携生涯活躍の町事業	17,928,000	3,996,000	4,000,000	PBL開講 一部事業化
	大学連携生涯活躍の町事業	3,304,757	20,000,000	9,900,000	PBL開講 一部事業化
	資源活用ニューツーリズム	1,080,000	2,000,000	1,000,000	PBL開講 一部事業化
	大学シーズ地域課題解決	-	1,000,000	2,000,000	PBL開講
	地域資源観光開発	-	1,000,000	1,500,000	PBL開講
	地域資源観光開発	-	-	1,000,000	PBL開講



マネジメント⑥ 地方での事業・プロジェクト展開

産業振興53件

農林水産14件 新産業32件 観光7件

若者定着15件

-  千葉大学
-  敬愛大学
-  聖徳大学短期大学部
-  木更津高専
-  千葉科学大学
-  千葉工業大学
-  城西国際大学

オーガニックシティプロジェクト

植物工場の高度化と六次産業化に関する研究実証
オープンデータ活用によるICT戦略の促進
地元企業・新日鉄住金ノ大仙等の問題解決
市民体験プログラム木更津駅前ブック・カフェの展開
デザインサーベイ2017in木更津

里山振興プロジェクト

遠隔コントロール可能なソーラー活用水耕システム
鳥獣被害対策のための電子デバイス開発
水田水耕による地産知恵事業
アイデアソンの実践を通じたツール・手法開発
大学・学生シーズを生かした若者チャレンジ支援
ITCを活用したサテライトキャンパスの実証実験
地域産業の振興・地域商店街の活性化への取組
廃校小学校企業誘致+リノベーション
ヘルス・サイクルツーリズムの推進
OB会と連携した人材循環の拡大に向けた取組
学生ボランティア・小中高生や市民との交流促進等
子育て支援活動の取組

2D/3D技術による文化財保存・活用
高校における地元愛醸成教育プログラム

空港南側圏のソーシャルビジネスの育成事業
成田空港の機能強化に対する産業振興の検討
木質バイオマスの有効活用の検討

桃子産品を活用した機能性食品開発
安全安心な海水魚陸上養殖の研究
スポーツタウン・ブランディング事業
洋上風力発電産業の導入
マッシュルーム栽培によるハエ駆除技術開発
廃校小学校企業誘致+リノベーション
犬吠埼温泉の新価値創出事業

健康寿命延伸プログラム策定
大学連携型生涯活躍のまち事業化
移住定住プログラム策定
カレッジタウン生涯学習プログラム運営
カレッジリンク・プログラム

ニューツーリズム観光まちづくり推進
メディアを活用した地域発信プロジェクト
高校における地元愛醸成教育プログラム
地域文化の伝承プロジェクト

オリパラ関連事業の推進
地域医療を支える人材育成
成田空港経済圏におけるインバウンド推進
成田空港経済圏を活用した人材交流事業

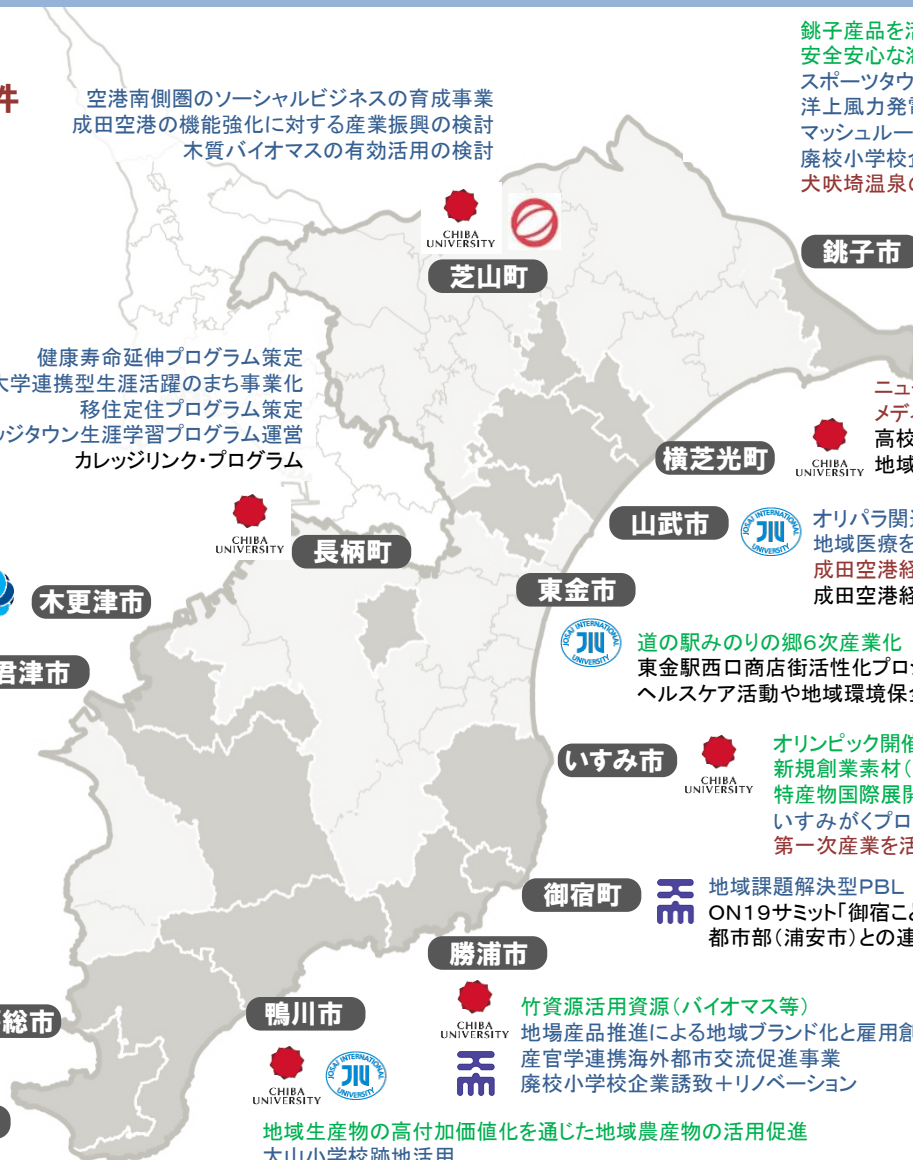
道の駅みのりの郷6次産業化
東金駅西口商店街活性化プロジェクト
ヘルスケア活動や地域環境保全活動によるまちづくりの推進

オリンピック開催に向けた異文化交流事業
新規創業者材(海藻)調査
特産物国際展開可能性調査
いすみがくプロジェクト(空き店舗活用学生トライアル)
第一次産業を活かしたツーリズム研究

地域課題解決型PBL
ON19サミット「御宿こども工務店」
都市部(浦安市)との連携プログラム支援

竹資源活用資源(バイオマス等)
地場産品推進による地域ブランド化と雇用創出事業
産官学連携海外都市交流促進事業
廃校小学校企業誘致+リノベーション

地域生産物の高付加価値化を通じた地域農産物の活用促進
大山小学校跡地活用
鴨川市観光プラットフォーム推進事業
域学連携地域づくり推進事業
安房の地域文化に関する調査研究



で
出口は

受皿の造成

若者への受皿・仕事づくりは誰の役割？

出口(社会の入口)の造成

「地域づくり」は、学生にとって「働き方」としても魅力が必要
(徹夜して準備して…、これは1円にもならない仕事だぞ、と気づく時が)

大学ベンチャー地域シンクタンク 「株式会社ミライノラボ」

30年4月設立

千葉地方圏の自治体の地方創生、産業振興
支援が主目的

学生のPBLの場の提供、卒業生の受皿、学
生ベンチャー支援



CREATING A SUSTAINABLE SOCIETY

ミライノラボ

大学発NPO

「NPO法人ちば地域再生リサーチ」

15年8月設立

15年間に渡って4,000万円/年規模の地域づく
り事業を継続。千葉大修了生をこれまでに4
名雇用



- ◆地域課題解決の担い手としては、市民活動もNPOもある
 - 大学ならではの、大学だからこそできる解決が必要
 - 他大学ではなく、高校でもない千葉大だからこそ、も必要
 - 市民活動、NPOができることはやらない
- ◆地域は課題の直接的な解決を要望
 - 大学は高度で先進的な課題解決方法を提案する傾向
 - ミスマッチもある
- ◆地域は学生をマンパワーとして利用したい傾向
 - 千葉大生にとっての最大級の学びが必要
 - 地域に企画書を要請(エンパワーメントの目的)
 - 学内ボランティアセンターを紹介することも



◆学びの内容・質・量の設定の難しさ

→OJTでしか教えられないものをどう教えるか(失敗させる)

◆PBL型科目の成績判定の難しさ

→GPAとの関係で受講を敬遠傾向。そもそもコミュ苦手意識をもつ学生が敬遠

→あくまで「地域づくり」へのマインドセットが目的であれば
30年度は「合」「否」のみ判定で試行

◆正課外のプロジェクト

→単位は関係なく、地域づくりに入りたい一定数の学生

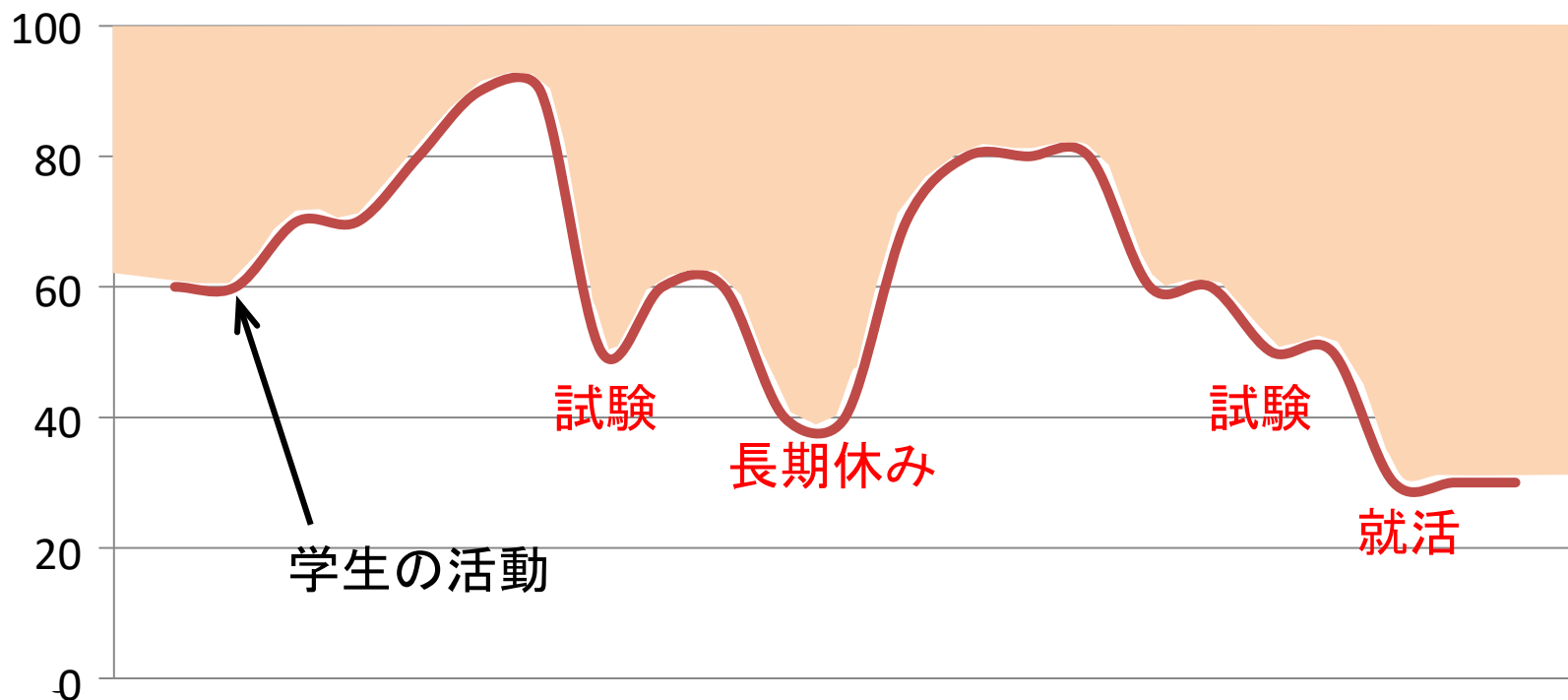
→地域で活動したいが、入り方が分からない学生

→リターンも必要(報酬・アルバイト代)



◆学生の活動と地域づくりの時間軸が一致しない

- 学生は一時的にしかかかわれないことへの地域からの不満
- 活動・関わりに対するリターンの発現は遅く(あるいはなく)、自らが関わったことの意義・意味は知らないまま卒業もある



◆地方におけるPBLの隘路である交通費・宿泊等の解消

→地方の自治体、地域のコスト負担が必要

◆学生を受け入れる地域・自治体の素地づくり

→地域・自治体が本気にならないと消耗するだけ

→あくまで地域の主役は地域。メインになりすぎない

→エンパワーメントは大学の役割とも考えられる

◆関わりしるを増やすための営業

→それぞれの地域からの外部資金の獲得が前提

→舞台づくりまでのマネジメントの仕事

→教員に研究費を獲得し、PBLを実施してもらうのも仕事

◆推進者に求められる役割はクロスセクターのマネジメント

→大学、自治体、地域のそれぞれのガバナンス、特質の熟知